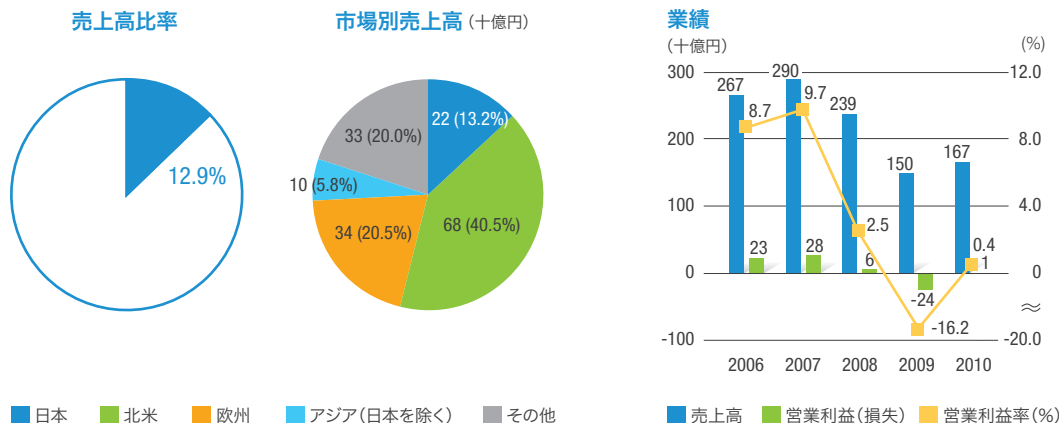


# マリン事業

2010年度のマリン事業の売上高は、前年度比170億円(11.3%)増の1,671億円となり、売上高全体の12.9%を占めました。また、営業利益は同250億円改善の7億円となりました。



## 船外機事業 新商品投入効果で販売拡大

2010年度の船外機総需要は、期首に前年度より継続しての低迷を想定していましたが後半より底打ち傾向が顕著となり、前年度比7.5%増の67.0万台となりました。

当社販売におきましても、米国での在庫調整が一巡し、ボートビルダー向けのOEM<sup>※</sup>販売も順調に推移しました。また、環境規制に対応した次世代型商品の開発も加速し、次世代4ストローク大型船外機『F225F』『F250D』『F300B』の3モデルを市場投入しました。その結果、米国では前年度比33.3%増の5.6万台を出荷するなど、先進国での販売が回復。新興国市場でもブラジル、ロシア、アジアでの富裕層向けのビジネスが好調に推移し、2010年度の当社販売台数は前年度比13.3%増の27.2万台となりました。売上高は同24.6%増の1,024億円となり、2010年度の業績回復に貢献しています。

マリンレジャー市場は今後も安定的に推移することが見込まれるため、2011年度の船外機需要は前年度比0.7%増の67.5万台と想定しています。当社では、環境対応力に優れた商品の投入によりラインナップの充実を図ることで、前年度比4.0%増の28.3万台の販売を計画しています。また、スウェーデンの船舶用エンジンメーカー、ボルボ・ペンタ社と船外機用操船制御システムの共同開発契約を締結するなどボートビルダーとの連携を強化し、「ゆるぎない世界シェアNo.1」としてのポジションを確立していきます。

※OEM: Original equipment manufacturer(相手先ブランド製造)



## ウォータービークル事業 在庫適正化を推進

2010年度のウォータービークル(水上オートバイ)の総需要は、景気低迷の影響から前年度比8.2%減の6.7万台となりました。

当社では、需要の低迷に応じて在庫の適正化を図り、計画どおりの生産・販売に努めました。その結果、2010年度の販売台数は前年度比3.8%減の2.5万台に、売上高も同6.1%減の239億円となりました。

マリンレジャー市場全体に回復力が認められることから、2011年度の総需要は前年度比1.5%増の6.8万台となる見通しです。当社では、2011年度の販売台数を前年度比36.0%増の3.4万台とすることを目標に全世界でニューモデル『VXR』『VXS』の積極的な拡販を展開する計画です。また、需要に見合った生産台数とシーズンに合わせた生産計画を引き続き推進し、収益性の高い事業への転換を図ります。



VXR

## 国内船艇事業 漁船市場が好調に推移

2010年度の日本国内のボート需要は、一部の地域での特別な事情により漁船が好調でしたが、レジャーボート、和船は引き続き低迷し、国内船艇全体では前年度比7.5%減の2,325隻となりました。

当社では、レジャーボート市場に向けて新モデルおよび廉価モデルを投入し、総需要を上回る販売が伸びました。また、漁船についても前年度を60%以上伸長するなど好調に推移し、2010年度の国内船艇全体の販売隻数は前年度比3.8%増の716隻になりましたが、売上高は同15.4%減の66億円となりました。

2011年度は、釣り需要を軸に小型量販艇の回復が見込めるものの、和船・漁船には懸念要因が認められることから、総需要は前年比0.9%減の2,305隻となる見通しです。当社では、レジャーボート市場に戦略モデルを投入し需要のテコ入れを行うことで、2011年度の販売台数を前年度比5.9%増の758隻を見込んでいます。